



発行：社団法人 日本リハビリテーション医学会 〒162-0825 東京都新宿区神楽坂6丁目32番3号 Tel 03-5206-6011  
Fax 03-5206-6012 ホームページ <http://www.soc.nii.ac.jp/jarm/> 年4回1、4、7、10月の15日発行 1部100円



特集

## 新理事長挨拶

# 動き出したアクションプラン

社団法人日本リハビリテーション医学会理事長 里宇 明元



2008年6月に理事長就任後、今後2年間の学会運営の方針として、以下の「7つのアクションプラン」を提案させていただきました（学会誌JJRM45巻7号411-412）。新しい執行体制はまだ船出したばかりですが、今回はアクションプランがどのように動き出したかについて会員の皆様にご報告いたします。

### 1. 役員会の改革と委員会活動の強化

役員会は2か月に1回開催されますが、その間に最低、月に1回、常任理

事会が開かれています。この場では、時々刻々と飛び込んで来るさまざまな事案の処理、役員会での議題の整理など、多様な案件が議論されます。7月からは、学会運営の透明性を一層高めるための一助として、議論の要点を常任理事会報告として役員会に報告するようにしました。もちろん、急な判断や対応を要する課題も多く、随時、電話やメールを活用して審議を行っています。その意味でも、face to faceの会議に加え、迅速な意思決定を支援するツールとしてのネットワーク会議システムの導入を、費用対効果を考慮しながら前向きに検討していきたいと考えています。

学会活動の要をなす委員会活動については、その活動を一層充実・強化、支援していくための方策を考える基礎資料とすべく、各委員会へのヒアリング、アンケートを計画しています。

### 2. 公益法人制度改革への対応

2008年12月に公益法人制度改革3法が完全施行されることを受け、学会組織の大幅な見直しが必要になります。そこで、定款および規則・内規を見直し、学会組織を発展的に再構築することを目的に、会則検討委員会を中心にワーキンググループ（WG）を早急に発足させることを検討しています。

### 3. リハ医育成アクションプランの策定

2008年7月の役員会でリハ医育成

アクションプラン策定WGを設置することが提案され、その後のメール審議を経て、表1に示す共通認識のもとに、WGのミッション、活動期間、メンバー、活動の方法、検討課題、スケジュールが表2のように決定されました。限られた時間での作業になりますが、当面は12月6日の専門医学術集会でのワークショップに向け議論が進められる予定です。

### 4. 研究活動の活性化

学術団体としての重要な使命は、リハ医学・医療に関わるサイエンスの推進にあり、そのためには良質なデータの蓄積を可能にするデータマネジメントシステムの確立とエビデンス発信体制の整備が不可欠です。このような認識のもとに、2008年3月の役員会でデータマネジメントWGの設置が決定され、9月より活動が開始されました。WG設置の経緯と概要を表3に示します。集中的な議論を通して積極的な提言がなされることを期待しています。

### 5. 社会保障制度改革への対応

平成21年度の介護報酬改定に関して、7月30日に理事長、社会保険等委員会担当理事・委員長が厚生労働省老健局を訪問し、老人保険課長・課長補佐と意見を交換しました。これを受け、8月11日には社会保険等委員会委員と老人保険課長補佐による懇談会

## 目次

- 特集：新理事長挨拶「動き出したアクションプラン」.....1-3
- 新理事長挨拶.....3, 4
- 第46回学術集会開催にあたって.....4
- リハ医への期待（1）高次脳機能障害者のリハ.....5
- INFORMATION：編集委員会、社会保険等委員会、教育委員会、システム委員会、中部・東海地方会、近畿地方会、中国・四国地方会、九州地方会.....6, 7
- 専門医会コラム.....8
- リハ・写真コンテストのお知らせ.....8
- 医局便り：黎明郷リハビリテーション病院.....9
- REPORT：医学生リハセミナー、関連学会報告.....9-11
- 広報委員会より、お知らせ.....11, 12, 14

広告：金原出版（株）、万有製薬（株）、（株）大塚製薬工場、武田薬品工業（株）、エーザイ（株）

表1 リハビリテーション医育成アクションプラン策定ワーキンググループ設置にあたっての共通認識

<p>日本リハビリテーション医学会はリハビリテーション科専門医・認定臨床医制度を導入し、リハビリテーション医学に関する学術の進歩と医療水準の維持向上のために貢献することを目的として、リハビリテーション医学・医療に関する専門的な知識や技術を有する医師を認定してきた。2008年7月2日現在、リハビリテーション科専門医は1,483名、認定臨床医は4,112名にのぼる。</p> <p>わが国は超高齢化社会を迎え、さらに、医療の高度化（新生児医療、救命医療、臓器移植、再生医療等）や重複障害など障害の複雑化を背景に、リハビリテーション医学・医療に対するニーズはさらに高まっており、リハビリテーション医学・医療に精通したリハ科専門医・認定臨床医の供給が追いつかない状況にある。特に、リハビリテーション科専門医数は日本リハビリテーション医学会会員数の15%未満であり、他学会と比較してもその割合が低いといえる。</p> <p>リハビリテーション科専門医会の「リハビリテーション科専門医供給に関するWG」は、将来のリハビリテーション科専門医必要数を3,078～4,095人と推計し、現在の数からの不足を1,694～2,711人と算定している。リハ科専門医は毎年30～50人ずつ増加しているが、今のペースでは3,000人への到達</p>	<p>が2047年となり、4,000人への到達が2069年と予測されニーズを満たせないことは明らかである。</p> <p>『本来、専門医制度の機能は、専門医の質を保証しつつ必要な専門医の数を分野ごと、地域ごとに決定し、持続的に一定の臨床経験を持った専門医を養成するということである』（日本学術会議2008年6月26日 要望：信頼に支えられた医療の実現—医療を崩壊させないために）。日本リハビリテーション医学会における専門医制度では、これまでリハビリテーション医療の質的向上と普及に力を注いできたが、今後、社会に対する責任を一層果たしていくためには、リハビリテーション医療を担ううえで必要な医師数の確保について精力的に考えるべき時期に来ていると言えよう。</p> <p>すなわち、良質のリハビリテーション医療を多くの国民に提供する体制を作るために、速やかに現行の育成制度の問題点を洗い出し、質を担保しながらリハビリテーション科専門医・認定臨床医数の適正化を図る対策が急務である。そこで、専門医会、教育、認定、試験問題、広報などの関連委員会を横断的に繋ぐ『リハビリテーション医育成アクションプラン策定WG』を設置し、リハビリテーション医療に関与する医師を包括的かつ効率的に育成する実効性のあるプランを策定・実行する。</p>
---	--

表2 リハビリテーション医育成アクションプラン策定ワーキンググループ：活動の概要

ミッション	(1) 質を担保しつつリハ科専門医・認定臨床医数の適正化を図る方策を具体的に検討する。 (2) 認定臨床医の位置付けについて検討する。 (3) アクションプランを策定し、役員会に報告する。
メンバー	常任理事2名、専門医会幹事から2名、教育・認定・試験問題・広報委員会委員長と担当理事各1名、地方会連絡協議会代表1名
活動の方法	(1) 会議：対面会議、メール審議、ネット会議の組合せ (2) ワークショップの企画・開催 (3) アンケートの実施、パブリックコメントの募集
検討課題	(1) 何が問題か (2) どのような対応策が考えられるか (3) その対応策のメリット、デメリットは
スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハ医育成アクションプラン策定WGの開催・趣旨説明（2008年8月中）（メール審議）</li> <li>・各委員会などでの具体的な検討（2008年8～10月）</li> <li>・リハ医育成アクションプラン策定WG開催（2008年10～11月）</li> <li>・アクションプランの策定（2008年11月中あるいはワークショップの後12月中）</li> <li>・専門医会（2008年12月6日）でのワークショップ開催</li> <li>・アンケート、パブリックコメントの募集（2008年12月中～2009年1月）</li> <li>・理事会に提案・審議（2009年1月24日、3月14日、5月16日）</li> <li>・総会にて承認（2009年6月4日）</li> </ul>

が催され、より具体的な意見が交わされました。また、8月には社会保険等委員会により平成20年度診療報酬改定に関するアンケート調査が実施されましたが、この結果は、今後の学会としての方針を決めていくうえで重要な資料になります。さらに、障害保健福祉委員会では、地域リハにおけるリハ医の関わりに関するアンケート調査が

企画されています。両委員会を中心に、リハ医療に相応しい制度体系について、中・長期的展望に立った提言をまとめていく予定です。

## 6. 国際化の推進

2008年5月の大地震により、中国四川地域は大きな打撃を受け、現在も復旧に向けての努力が続けられていま

す。その中で、特にリハ医療に対する国際支援への要望が強く、日中医学協会から本学会宛にリハ専門家の派遣に関する協力要請が寄せられました。学会には阪神淡路大震災をはじめとする大規模災害時におけるリハ医療のノウハウを持った人材がおられますので、窓口となる国際委員会でどのような協力が可能か検討していただき、早急に具体化していきたいと考えています。

## 7. 関係団体との連携強化

すでに軌道に乗っているリハ関連5団体、内科系学会保険連合、外科系学会保険連合を通しての連携に加え、日本整形外科学会と本学会の社会保険等担当理事間での定例会が始まっています。また、日本作業療法士協会からの要請に応える形で、理事長、渉外担当常任理事と作業療法士協会幹部との懇談会が8月15日に開かれました。さらに、8月22日には、日本理学療法士協会会長と平成21年度介護報酬改定について意見を交換しました。今後も関係諸団体との意見交換の機会を積極的に設けていきたいと考えております。

\*

以上、7つのアクションプランのその後の動きをご報告しました。会員の皆様のご意見を伺いながら、一歩でも前進するように努めてまいりますので、引き続きご支援、ご協力をお願い申し上げます。

表3 データマネジメントワーキンググループ：設置の経緯と活動の概要

設置の経緯	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 2006年8月に診療ガイドライン委員会に「臨床研究・調査のためのガイドライン策定委員会」が設置され、学会としてデータを持続的に収集するためのデータベースシステムの必要性が議論された。</li> <li>2) その第一歩として2006年10月に「脳卒中に関する臨床研究・調査のためのガイドライン」が策定され、公表された。</li> <li>3) 2006年12月に同ガイドラインに基づくデータ収集のトライアルがモニター専門医を対象に行われ、また、2007年の第44回学術集会の演題登録において、ガイドラインに準拠した研究であることのチェックが試みられた。</li> <li>4) 2007年5月に学会員より診療ガイドライン委員会担当理事に「リハビリテーション患者データバンクに関する提案」が寄せられた。同年5月の役員会で報告し、診療ガイドライン委員会でデータマネジメント(DM)について検討することになった。</li> <li>5) 「臨床研究・調査のためのガイドライン策定委員会」においてDMについて議論され(2007年9月、10月)、検討結果を同年11月の役員会に報告した。それを踏まえ、次の役員会で重要審議事項として審議することになった。</li> <li>6) 2008年1月の役員会において審議され、今後の進め方を検討するために、理事4名、専門医会幹事長からなるディスカッショングループが設置された。</li> <li>7) ディスカッショングループにおいてメール審議が行われ、DMワーキンググループの設置が提案された。</li> <li>8) 2008年3月15日の役員会で上記提案が承認され、7月26日でメンバーの選定が行われた。</li> </ol>
活動期間	1年間
活動課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>① DMに関するこれまでの委員会報告、担当理事報告の批判的吟味と論点の整理。</li> <li>② DMに必要な要件の整理。</li> <li>③ コンサルテーション機関を活用し、DMに必要な情報収集、形態、規模、コスト等についてのシミュレーション、オプションの検討を実施(コンサルテーション機関の選定については役員会の承認事項とする)。</li> <li>④ 検討結果から導きだされた今後の方向づけとそれに伴う課題を整理し、役員会に答申(途中報告も含む)。ただし、他学会との連携や高額の支出予定など、決定に伴って、リハビリテーション医学会の運営に大きな影響を与える事項については、すみやかに役員会に提案、承認を得ることを必要とする。</li> </ol>
メンバー	理事2名、診療ガイドライン委員会、社会保険等委員会、専門医会からの推薦者各1名の5名程度。

## 2008年度新理事紹介

本年6月4日の通常総会で選任された6名の新理事を紹介いたします。自己紹介、理事としての抱負のほか日々のリフレッシュ法についてもお聞きしました。

### ◎赤居 正美【常任理事：渉外、運動器の10年、データマネジメント】(国立障害者リハビリテーションセンター病院)

この度、リハ医学会理事さらに常任理事に選任されました。4年間お務めになった江藤理事長の交代もあり、里宇新理事長のもとに、上月、吉永各常任理事をはじめ各役員の方、事務局の方々と協力して、学会のために少しでもお役に立てばと考えております。以下に今後に向けての抱負・活動方針を述べたいと思います。

- (1) 各種診療ガイドラインの整備、および学会主導による大規模臨床比較試験(RCT)を可能にする体制整備
  - (2) リハ関連諸団体や関連学会との連携、情報交換の推進
  - (3) 診療報酬改定の動きに沿い、学術団体としての活動を持続的に進められるようさらに体制を強化
  - (4) ISPRM、AOSPRMなどの国際学会との協力体制の推進
- などを考えております。

会員の皆様方より一層のご指導とご支援をたまわりますよう、お願い申し上げます。

### ◎朝貝 芳美【障害保健福祉委員会】(信濃医療福祉センター)

この度、本医学会の理事に選出いただき、里宇理事長のもとで学会発展のために努力する所存でございます。障害者福祉の領域では2006年障害者自立支援法が制定され大改革が行われ、小児の施設は再編成に向けての議論が最終段階をむかえるなか、障害保健福祉委員会の担当理事として介護報酬の改正も視野にしっかりと取り組んでまいります。

信濃医療福祉センターでの勤務は約30年になります。この間、障害児をとりまく環境は大きく変化し課題が山積するなか、小児リハの充実発展に努力する所存でございます。皆様のご指導、ご支援をお願いいたします。

運動不足解消のために、短時間でも毎日ジョギングをするように心がけています。1日3回は我が家の温泉に入り、家庭菜園で野菜づくりをしてリフレッシュしています。

### ◎安保 雅博【認定委員会、試験問題委員会】(東京慈恵会医科大学)

今回、理事になりました安保雅博です。よろしく願い申し上げます。昨年より東京慈恵会医科大学リハ医学講座を主宰することになり、若いリハ医と医学生には、日々リハ医学の面白さと楽しさ、そして明日について語りながら、大学にあってはリハ医学の重要性を他科医師に伝える努力をいたしております。リハ医学の特徴は、多岐にわたる医学分野に関わることを考えておりますので、他の多くの学会とも親密に連携を保ちながら、リハ医学会の地位向上とリハ医のサブスペシャリティの確立、生涯教育の充実などに特に注力していきたいと考えております。また、リハ医学を志す若い医師に、希望が持てる明るい学会に発展させることが私に与えられた任務と考えています。

趣味は、明るく攻撃的に回るゴルフです。ご一緒できる機会があれば幸いに存じます。

◎生駒 一憲【診療ガイドライン委員会】  
(北海道大学病院リハ科)

このたび理事に選出していただきまことに厚く御礼申し上げます。

私は1983年に奈良県立医科大学を卒業し、神経内科学教室に入局いたしました。そこで故眞野先生にご指導をいただきリハ医学の道を志しました。2001年に北海道大学リハ医学に異動し、2006年から眞野先生の後継として北海道大学病院リハ科教授を務めております。また、代表幹事として北海道地方会の運営にも携わっております。新理事会においては診療ガイドライン委員会を担当することになりましたが、この委員会は関連団体と連携してリハに関する診療ガイドラインを作成しております。これは単に診療に役立つだけでなく、本医学会を広く認識してもらうのに重要な役割を果たしていると考えております。本委員会も含めて本医学会発展の一翼を担うことができるよう心も新たに努力して参りますので、何卒よろしくごお願い申し上げます。

◎出江 紳一【編集委員会】(東北大学  
大学院医工学研究科)

2008年4月に日本で最初の医工学研究科が東北大学に創設され、その中のリハ医工学分野を担当しています。副研究科長に任ぜられ、またこれまでの医学系研究科肢体不自由学分野と大学病院も兼務していますことから、会議と教育の仕事が倍になりましたが、教室員のサポートを貰い新しい仕事を楽んでいます。本学会委員会活動と致しましては、認定委員会で6年間、教育委員会で6年間働いて参りました。また1996年度より毎年欠かさず専門医試験の試験官をさせていただき、口頭試問の枠組みの中ではありませんが、学会の将来を担うリハ科医の生の声を聞いてこられたことは大きな財産となっています。理事として、若い会員が誇りを持って働ける環境を作るために全力を傾ける所存です。

ひとこと:今は東北大学出身の作家、伊坂幸太郎氏の小説を新幹線の中で読んでいます。

◎久保 俊一【国際委員会】(京都府立  
医科大学大学院医学研究科)

栄えあるリハ医学会の理事にご選出いただき心よりお礼申し上げます。

私は2002年に京都府立医科大学大学院医学研究科運動器機能再生外科学(整形外科)教授に就任以来、京都のリハ医療が充実するよう努力してまいりました。この期間にわが国の医療費抑制政策がリハ領域でも推し進められていることを痛感しておりました。このような社会環境の中で、本医学会が国民に対してリハの重要性をアピールし、社会的責任を果たしていく必要性が以前にも増して高まっていると考えております。今後はリハ医学会の理事として、日本整形外科学会との連携をはかるとともに、リハの教育・診療・研究など広い視野に立って本学会のさらなる発展に尽力する所存です。

日々の業務に追われ、趣味は少ないですが、早朝に京都を散策することで健康維持を心がけるとともに、四季折々の風景を眺めて、仕事への活力を得ております。

## 第46回日本リハビリテーション医学会学術集会開催にあたって



第46回日本リハビリテーション医学会学術集会会長 木村 彰男  
(慶應義塾大学月が瀬リハビリテーションセンター)

伝統ある第46回日本リハビリテーション医学会学術集会を2009年6月4日から6日に静岡市で開催させていただくこと、大変光栄に思っております。

学術集会のメインテーマは、暗い話題の多い昨今の状況を打破して未来へ向かって明るく挑戦できるように、「**リハビリテーション医学—夢と希望への挑戦—**」としました。リハビリ医学が培っている土壌は非常に幅広いものがあり、医学、医療の枠を超えて学際的にアプローチすることにより社会に広く貢献したいというメッセージです。このような観点から、充実したプログラムを組みたいと考えておりますが、現時点で決まっている幾つかを御紹介したいと存じます。

宇宙飛行士の向井千秋先生には、「宇宙飛行とリハビリテーション」と題して特別講演をお願いしております。廃用症候群など宇宙医学とリハビリ医学の間には共通のテーマも多く、特別講演を受けての宇宙医学関連のシンポジウムも企画しております。国外からはHonorary Memberである木村淳先生、Corresponding MemberであるDr. Robinsonをはじめ、米国、アジアから複数のリハビリ専門医を呼んでいます。電気生理に関するハンズオンや、専門医会との共同企画による国際的なシンポジウムを開きたいと思っております。

文化勲章受章者である宇沢弘文先生をお招きして、「日本の医療このままでよいのか(仮題)」というテーマで、県民・市民公開講座も開催する予定です。世界的経済学者である宇沢先生からは、示唆に富む話を拝聴できるものと確信しております。

企業展示も県民・市民への常時公開

として、私どもと共同でリハビリ機器の開発を行っている企業にも積極的に参加していただき、アトラクティブなものにしたいと思っております。

ところで会員の皆様には静岡は比較的近いと思っておりますが、学会の合間には伊豆箱根などの観光地に足をのばして当地を満喫していただければと思っております。会場であるグランシップも満足していただけるものと思っておりますが、懸念されることは、静岡駅からJRで一駅(東静岡)というアクセス面と宿泊関連です。是非会員の皆様には、宿泊の予約などを早めにしていただければと思っております。

既に静岡県、静岡市、静岡新聞、静岡放送の後援も決定しており、医局員はもちろん、静岡県の専門医の皆様にも組織委員会に参加していただき、よりよい学術集会になるよう、鋭意努力しておりますのでどうぞ皆様ふるって御参集ください。

# リハ医への期待 第1回

## 高次脳機能障害者のリハビリテーション

NPO 法人 おかやま脳外傷友の会・モモ 会長 清水 正紀

### ●はじめに

1999年11月某日深夜、長男（当時22歳）が交通事故により意識不明の状態に救急病院に搬送されました。我が家の生活が一変してしまつた長男の事故から間もなく9年が過ぎようとしています。

2001年7月には発起人として当事者家族会を岡山県に設立し、全国の家族会の連合体である「日本脳外傷友の会」に加盟し活動を続けています。

私が息子と歩んできた道のりの一端をご紹介します、中途の脳損傷者とその家族について理解を深めていただければ幸いです。

### ●受傷からの経過

息子の意識が戻ったのは、事故から1カ月半が経過してからでした。意識が戻ったら日々良くなると信じていました。実は、これからが私たち家族にとって本当の試練の始まりでした。意識は回復したものの、意識混濁状態が長く続きました。脳損傷に伴う多彩な症状が表れてきました。奇異な行動や言動に翻弄される日々でした。変わり果てた息子の状態をだれも納得がいくように説明してくれませんか。勉強するための図書や資料が当時はありませんでした。

### ●当事者家族会との出会い

入院から5カ月目のことでした。病院の待合室に置かれていた新聞記事に「日本脳外傷友の会発足」の記事が載っていました。同じような経験をしている当事者家族が全国にたくさんいることを知りました。情報を求めて連絡しました。ようやく息子の症状について理解する手がかりを見つかることができました。「高次脳機能障害」であると。

高次脳機能障害についての理解と対応の仕方について手探りで勉強を始めました。

脳機能障害者が地域で生活するためには、高次脳機能障害について身近に

いる人がしっかりと学ぶ必要があるということを教えられた全国の家族との出会いでした。

自分の状態をうまく伝えることができない当事者本人に代わって理解と適切な対応を周囲の人たちに伝えることは家族と支援者の役割でもあります。

家族が良き理解者から支援者へと成長することが求められてもいます。

### ●リハ医への期待

2001年度から国として「高次脳機能障害支援モデル事業」（以下、モデル事業という）を2005年度までの5年間実施しました。その後、モデル事業の成果を全国に普及するため「高次脳機能障害支援普及事業」（以下、普及事業という）として引き継がれています。

当事者・家族にとってまず大切なことは、脳損傷に伴い高次の脳機能がどのように障害されているか診断と評価を受けて知ることです。この段階なくして先には進めないのではないかと思います。当然のこと早期の脳機能改善のためのリハビリテーションが大切です。その後の生活の場におけるいろいろな工夫と継続的な努力が必要です。

モデル事業取り組みへと国を動かした原動力は「リハ関係者の熱意と当事者団体（脳外傷友の会など）家族の強い訴えがあった」（2003年9月リハ研 中村）と言われていました。

モデル事業を通じて「高次脳機能障害の診断基準」などが作成されました。

全国どこでも高次脳機能障害の診断・評価を受けることができる体制を整えてほしいと思います。また、入り口である医療の場において、見通しを持ったリハビリテーションを実施していただきたいと思っています。もう少し具体的に言うと、この患者さんは生活の場でどういう問題があるか、家族だけで支えられるか、地域で生活できるようにするためにはどのような支援が必要かということを想像し考え、支援につなげてほしいということです。

医療の場を離れた後、脳損傷・高次脳機能障害を受け入れてくれる福祉施設などは決して多くありません。福祉施設などで受け入れが難しいと感じている大きな理由は、どのような人か分からない、どう対応したらよいか分からないということがあります。

医療の場から福祉の場などへつなぐためには、医療の場からの適切な情報提供が欠かせないと思います。患者さんを適切な支援につなぐことを拒む個人情報はないと思います。

全国的に見てもリハ医を中心としたリハ関係者の熱意と当事者団体との協働などによって、高次脳機能障害者の地域生活を支える仕組みが少しずつ整ってきています。

これまでモデル事業、普及事業の全国展開における推進役を担っていただいているリハビリテーション関係者はずいぶん増えてきました、心から感謝申し上げます。

それでも「親、家族なきあとの当事者本人のことが心配である」ことに変わりはありません。まだまだこれからであると家族は思っています。

### ●おわりに

息子が受傷した9年前と比べ脳損傷、高次脳機能障害に関する出版物や情報は莫大に増えています。インターネット情報を中心にお知らせします。脳損傷の患者さん・ご家族にも伝えていただければと思います。

- ・「国立身体障害者リハビリテーションセンター」（モデル事業、普及事業情報）
- ・「神奈川県リハビリテーション支援センター」（高次脳機能障害相談支援の手引き）
- ・「名古屋市総合リハビリテーションセンター」（高次脳機能障害サイト～理解と対応～）
- ・「NPO 法人日本脳外傷友の会」（全国の家族会情報、毎年全国大会開催）
- ・「大阪脳損傷リハビリテーションネットワーク」（脳損傷に関する豊富な情報）



## 編集委員会

6月4日から6日まで第45回学術集会在横浜で盛大に行われました。皆様の活発なご発表を、学会誌 Jpn J Rehabil Med の投稿に結び付けたいと考え、今年も座長の先生方に推薦論文を選んでいただきました。それをもとに投稿の依頼をお送りいたしました。推薦を受けた先生方はぜひとも会誌へ投稿していただきますようお願いいたします。なお、投稿論文は座長推薦であっても通常の審査になりますので、ご了承をお願いします。

今回の編集委員会日よりでは、電子ジャーナル化について改めてご紹介いたします。日本リハ医学会のHPの会誌(JJRM)を開いていただきますと、利用できる検索システムが3つあります。1997年以降の目次と抄録の見られる従来からのシステムのほかに、J-STAGEでは、2005年以降の総説を含む論文および教育講演等について抄録と本文が、CiNii(シーニー)では、1964年の第1巻から全文がPDF化されてダウンロード可能です。J-STAGE内はテキスト検索が可能です。CiNiiではできません。

この度、10名の委員のうち3名(安保雅博、生駒一憲、小林一成委員)が交代いたします。近年、我が国の医学雑誌の質向上が求められており、本誌も現在、電子査読システムの導入準備中です。本運用までに投稿規定の改定や、投稿方法や査読方法のご案内も今後必要になります。外国からの投稿が増えることを期待し、新体制のもと国際化に向けた準備を少しずつ進めてゆきたいと考えています。

(委員長 長岡正範)

## 社会保険等委員会

平成20年7月10日には、厚生労働省保険局医療課から疑義解釈資料(その3)が送付されました。その中にはリハビリテーション医療に関係の深い検査で、平成18年度の診療報酬改定の折に正式に項目立てが行われた下肢加重検査、フォースプレート分析、動作分析検査に関する事務連絡が行われました。その項目を以下に抜粋します。

(問) 区分番号 D250 平衡機能検査「5」の重心動揺計は、「1」の標準検査を行った上、実施の必要が認められたものに限り算定する、とされているが、その他の「5」の下肢加重検査、フォースプレート分析、動作分析検査についても、あらかじめ「1」の標準検査を行う必要があるのか。  
—— (答) その必要はない。

(問) 区分番号 D250 平衡機能検査「5」の下肢加重検査は、靴式足圧計測装置<sup>1)</sup>やシート式足圧接地足跡計測装置<sup>2)</sup>、プレート式足圧計測装置<sup>3)</sup>等を用いて行うが、一連の検査として、複数の装置を用いて計測した場合においても、1回しか算定できないのか。  
—— (答) そのとおり。一連の検査につき1回である。

(問) 区分番号 D250 平衡機能検査「5」の下肢加重検査、フォースプレート分析、動作分析検査は、耳鼻科領域に限定されているのか。

—— (答) 当該検査は、耳鼻科領域に限定するものではない。

(注1) 靴式足圧計測装置により、下肢荷重を計測し、歩行時における垂直荷重分析などを行う。

(注2) シート式足圧接地足跡計測装置により、下肢荷重を計測し、歩行時における時間・距離因子分析などを行う。

(注3) プレート式足圧計測装置(左右別型重心動揺計)により、下肢荷重を計測し、足踏み動作時における左右足の足圧中心(COP)移動分析などを行う。

平成19年4月19日付けの「疑義ネット」(学会誌 JJRM44 巻8号 435頁(2007年)に掲載)で回答された内容から、下肢加重検査、フォースプレート分析、動作分析検査は、それぞれの検査(分析)ごとに所定の点数を算定することが可能であると解釈されますが、検査値の精度や人体への安全性を担保するためにも、薬事法に承認された機器を使用して、適切な方法で実施することが望まれます。  
(委員長 田中宏太佳)

## 教育委員会

### 実習研修会の現状と展望

本医学会認定臨床医やリハビリテーション科専門医を目指す医師、あるいは既に認定を受けた医師が、多岐にわたる疾患・障害に対応するうえで、種々の医療技術の習得を行うために実習研修会を施行しています。指定施設における研修のみで幅広い領域の全てにわたり十分な経験をすることが困難な場合も少なくないため、当委員会では会員の皆様に効率的に各分野の技術を習得していただけるように努力を続けています。今回、実習研修会の現状をご報告するとともに、研修会への積極的な参加をお勧めします。

平成20年度はこれまでに共催していました「脊損尿路管理研修会」「小児のリハビリテーション実習研修会」「臨床筋電図・電気診断学入門講習会」「福祉・地域リハビリテーション実習研修会」「動作解析と運動学実習研修会」に加えて新たに「義手・義足適合判定医師研修会アドバンスコース」の共催を行い、実習研修会の数も6つに増えました。今後は摂食・嚥下リハビリテーションや、呼吸リハビリテーションなどの分野での実習研修の機会を増やすとともに、各地域の会員の皆様が参加しやすいよう、研修会場についても工夫していければと考えております。

実習研修であるゆえ、各研修会とも参加人数に制限がありますが、認定臨床医受験資格要件であるとともに、単位の認定もありますので皆様の参加をお待ちしております。実習研修会の予定は本医学会ホームページの「研修会」の項をご参照ください。

(「実習研修会」担当委員 大田哲生)

## システム委員会

7月14日からリハ医学会の**新システムが稼働**しました。システム委員会から現状を報告します。9月17日時点ではログイン者数は976名(内専門医 394名)です。

9月17日現在、全会員用掲示板は使用実績がありません。専門医会用は29件の書き込みがありました。委員会活動では使っていない委員会も多いのですが、例えば専門医会幹事会は49件、ガイドラインコア委員会では17件、システム委員会では23件の書き込みがありました。委員会メンバーの未登録など不備もございましたこと、お詫び申し上げます。

メールマガジンは届く会員の数がまだ少ないので北海道地方会からしか発行されていない現状です。

このほか、会費納入状況や名簿検索(たぶん、今後のリハ学会への抄録作成時に役立つと思われる)、登録情報変更などが可能です。

研修施設申請・更新用webの作成は現在進行中です。

Webシステムと連動することを目指して変更した事務局内のローカルシステムはまだまだ完成には至らず、会員の皆様にご迷惑をおかけしている点もあるかと思いますが、どうぞ完成までご寛容の程をお願い申し上げます。

このシステムは会員の皆様の参加があって初めて効力を発揮します。特にメールマガジンはそうです。まずはリハ学会のホームページに行き、パスワード確認画面で当初設定パスワード(生年月日8桁)を自分で決めるパスワードに変更し、自分の電子メールアドレスを登録してください。ここまで済ませていただかないと、各種機能が使えませんし、メールが届きません。(委員長 園田 茂)

## …… 中部・東海地方会だより ……

中部・東海地方会では、第24回地方会学術集会と専門医・認定臨床医生涯教育研修会を2009年2月7日(土)に予定しています。研修会は清水克時先生(岐阜大学医学部整形外科教授)に「スポーツ選手の腰椎分離症」を、飛松好子先生(国立障害者リハビリテーションセンター病院第一機能回復訓練部部長・研究所補装具製作部長)に「脳血管障害片麻痺の装具療法」をご講演いただきます。ご参加のほど、よろしく願います。▶2007年5月より中部・東海地方会のHPを開設しております。学会ならびに専門医・認定臨床医生涯教育研究会の詳細はHP(<http://www.fujita-hu.ac.jp/~rehabmed/chubutokai/index.html>)をご覧ください。(代表幹事:才藤栄一)

## …… 近畿地方会だより ……

リハ医学教育を系統的に受けていない先生方が回復期リハ病棟専任医として御苦労されているという声を聞き、「**すぐに役立つリハの基礎知識を得ることができ、リハ専門スタッフに任せきりにすることなく、医師が主体性をもって回復期リハを運営できるようになる**」と銘打って、近畿地方会教育委員会の主催で「**回復期リハ病棟など、リハ専任医のための研修会(基本編)**」を開始しました。近畿圏のすべての回復期リハ病棟のある病院(約200件)に案内状を送り、第1回として8月28日(木)午後7時から大阪で脳

卒中リハ(田中一成)、嚥下障害のリハ(菅)の2講演を開催しました。参加者は30数名で、リハ学会員以外にも数名参加され、活発な討論が行われました。10月22日には京都で循環器疾患リハ(宮崎)、地域リハ(垣田)、平成21年1月14日には大阪で脊髄損傷(土岐)、高齢者リハ(小西)を行う予定にしています。今後も隔月で大阪と京都交互に行う予定で、演者は主に若手専門医とし、教科書的な内容を中心をお願いしています。熱心な参加者のおかげで続けることができると思っています。(教育委員会:大澤 傑)

## …… 中国・四国地方会だより ……

中国・四国地方会では、次回の第22回学術集会を平成20年12月14日(日)9時~17時に予定しています。会場は岡山大学医学部臨床第1・第2講義室(岡山市鹿田町2-5-1)で、岡山大学整形外科学教授の尾崎敏文先生に大会長をお務めいただきます。特別講演(専門医・認定臨床医生涯教育研修会)は、兵庫医科大学リハ部教授の道免和久先生に「CI療法の理論と実際」を、日本大学医学部整形外科学准教授の徳橋泰明先生に「転移性脊椎腫瘍の治療—QOL向上の観点から—」をお話いただくこととなっております(1講演10単位)。▶一般演題の発表も予定されており、会員による活発な討議が期待されます(参加10単位)。演題募集の締切は10月10日(金)で、問合せ先は下記の通りです。先生方の多数の応募をお待ちいたしております。なお、第27回中国・四国リハビリテーション医学研究会との同時開催を予定しておりますので、コメディカルの皆様のご出席も可能です。日本リハ医学会会員の先生方には、リハに関係する多くの方々にご参加を呼び掛けていただければ幸いに存じます。学会ならびに専門医・認定臨床医生涯教育研修会への参加についての申込みは不要です。詳細はホームページをご覧ください。(学術集会の問合せ先:岡山大学整形外科、TEL 086-235-7270、E-mail: [tsreha27@md.okayama-u.ac.jp](mailto:tsreha27@md.okayama-u.ac.jp)、担当:三宅、HP:<http://www.okayama-u.ac.jp/user/tsreha27/>)

(代表幹事:椿原彰夫)

## …… 九州地方会だより ……

第24回九州地方会学術集会が浜村明德幹事(小倉リハ病院院長)の担当で、本年9月7日(日)、北九州市のリーガロイヤルホテル小倉において開催され、盛会裏に終了いたしました。今回は一般演題数が24と多く(通常は15~20)、限られた時間内では白熱したディスカッションが終わらないこともありましたが、よい勉強の場となりました。ホテルでの開催や時間調整など、ご準備をいただいた浜村幹事はじめ小倉リハのスタッフの方々に感謝申し上げます。▶第25回地方会学術集会(担当:米幹事・鹿児島大学)は、平成21年2月22日(日)、鹿児島市・鶴陵会館(鹿児島大学病院内)で開催、同時開催される教育研修講演は3本の予定です(詳細は地方会HPをご覧ください)。第26回地方会学術集会は、水田幹事(熊本大学)の担当で、平成21年9月13日(日)、熊本市・崇城大学市民ホール(市民会館)での開催予定です。鹿児島、熊本ともふるってご参加のほどお願いいたします。▶幹事会・総会報告(本年9月7日開催):熊本県の幹事として、福岡県より異動の大隈幹事を選出、新たに福岡県の幹事として、黒木洋美幹事(麻生飯塚病院リハ科部長)を選出致しました。第25回地方会幹事会・総会にて、幹事の改選・代表幹事の選出が行われる予定です。(事務局担当幹事:佐伯 寛)

専門医会  
のコラム

## 第3回リハビリテーション科専門医会学術集会 《2008 福岡》のご案内

リハニュース 38号でもご案内いたしましたように、標記学術集会を本年12月6日(土)～7日(日)の2日間にわたり、都久志会館(福岡市中央区天神)で開催致します。ご案内済みのシンポジウム「Brain scienceのトピックス」、パネルディスカッション「リハビリテーション科専門医と研究」、教育研修講演3本、意見交換会のプログラムの詳細に関しては、本学会誌45巻9号549頁ならびに学会HPをご覧ください。

\*

追加のお知らせを下記に列挙いたします。

■12月6日(土)の専門医会総会において**専門医会幹事の選挙**が実施されます。総会出席の専門医にのみ投票権があります。今後の専門医会の方向性を決める重要な選挙です、是非ご出席ください。

■12月6日(土)、「リハビリテーション医育成アクションプラン」を特別企画として開催予定です。不足しているリハ医をどのように増やしてゆくべきか、皆様のご意見をお待ちしています。

■12月7日(日)午後開催予定の**実技セミナー「高次脳機能評価法の実際」**の申し込みにつきましては、好評につき定員に達しましたので、申し込み受付を締め切りました。

■本学術集会2日間にわたり出席すると**専門医・認定臨床医生涯教育研修40単位**を取得できます(学術集会参加10単位+教育研修講演10単位×3本)。

\*

現在、鋭意準備を進めています。ふるってご参加のほどお願いいたします。(専門医会幹事会)

## リハビリテーション・写真コンテスト実施のお知らせ

広報委員会

### 【趣旨】

広報委員会では、医学、医療としてのリハビリテーションの意義を広く社会に周知するとともに、人材の育成へ向けたプロモーション活動の一環として、リハビリテーション・写真コンテスト(以下、本コンテスト)を企画いたしました。本コンテストの実施を通して、わが国におけるリハビリテーションの進展へ向けた機運が一層高まることを期待しています。たくさんのご応募をお待ちしております。尚、応募作品は厳正な審査の上、優秀作品は所属、氏名とともにリハニュース紙面、ホームページ <http://www.soc.nii.ac.jp/jarm/index2.html> に掲載させていただきます。

### 【応募要項】

- 1) 応募期間：2008年10月1日～12月15日締め切り
- 2) 応募資格：本コンテストの趣旨に賛同し、リハビリテーション医学・医療に興味を有する方  
(本学会員であることは問いません。)
- 3) 募集作品：リハビリテーションにかかわる臨床・教育・研究を作品のモチーフとする人物、静物、風景など。
- 4) 応募方法：本学会ホームページより、画面の指示に従ってオンライン応募をお願いいたします。  
(10月1日より設置予定)

※応募作品の著作権は本学会に帰属するものとし、広報のための冊子やホームページ、ビデオ等にも活用させていただきます。詳細はオンラインをご参照ください。



# 財団法人黎明郷リハビリテーション病院 医局だより

財団法人黎明郷リハ病院は1967年4月、青森県平川市（旧碓ヶ関村）に『脳卒中および高血圧の予防、診断ならびにリハに関する研究、調査を行い、もって社会福祉の増進に寄与すること』を目的として開設されました。当時は日本全国においても片仮名の「リハビリテーション病院」を看板に用いた数少ない病院であったと聞いています。2003年4月に介護老人保健施設「つがる」、2005年7月、弘前市に弘前脳卒中センター（145床）をそれぞれ設立し、黎明郷リハ病院は103床となりました。それぞれの施設には独自の運営理念を有しながら、財団内施設完結型リハとして連携機能・役割をも担っています。

現在、黎明郷リハ病院は一般病棟35床（10対1看護）、回復期病棟68床（回復期リハ入院料1、重症者回復期加算）で診療しています。弘前脳卒中センターが脳卒中特化であるのに対し、当院はリハ対象疾患全般を扱い、総合的リハを実施しています。入院患者は近隣ばかりでなく全

県域におよび、また大館・北秋田地域からも多数ご利用いただいております。脳卒中地域連携パス『大館・鹿角・碓ヶ関パス』を運用しています。



朝の病床会議の情景

スタッフは常勤医6名（内科4名、脳外科1名、リハ科1名）、外来専任医1名、大学院生2名（卒後6～7年目）で行い、その他、週1回耳鼻科、泌尿器科、整形外科の各診療、歯科診療が週3回となっています。

研究・教育に関しては、1973年日本脳卒中研究会を始めとして、第7回日本脳卒中学会総会（会長：大池弥三郎）、WHO（世界保健機関）の高

血圧に関する共同研究、日中脳卒中合同会議、日中リハ看護学会議、第3回国際栄養学会－心脳血管病（会長：大池弥三郎）、日中高血圧シンポジウム、リハビリテーション・ケア合同研究大会青森2006（会長：福田道隆）などを開催し、また医療・看護スタッフにより各種関連学会・研究会において積極的に発表しております。地域医療として、訪問診療・訪問看護・訪問リハの実施、近隣の市町村でのリハビリ教室にも積極的に出かけ指導しています。また、青森県高齢者等リハ支援センターの指定を受け、青森県のリハにおける指導的役割を担っています。日本リハ医学会、脳卒中学会の研修施設、NST稼働施設です。

（松本茂男）

\*\*\*\*\*

財団法人黎明郷リハビリテーション病院  
〒038-0194 青森県平川市碓ヶ関湯向川添30  
Tel 0172-45-2231、Fax 0172-45-2373  
URL : <http://www.reimeikyoku.jp/hospital/index.htm>

## REPORT

### 第19回日本末梢神経学会

2008年9月5日～6日の2日間にわたり、名古屋大学大学院医学系研究科神経内科の祖父江元先生が会長を務められ、名古屋国際会議場で第19回日本末梢神経学会学術集会在開催された。私自身、大学院のテーマが電気生理学であったこともあり一度は参加したいと思っていた学会であった。

学会は国際会議場1号館の3階と4階で開催された。規模はそれ程大きな学会ではないが、神経内科・整形外科・産業医学・基礎医学の先生方など様々な専門家が一堂に会している点が、最も特徴的な学会であった。糖尿病性末梢神経障害、手根幹症候群、脱髄変性疾患などの診断や治療が主たる演題であったが、各専門家からの意見や、それをもとに行われるディスカッションには非常に熱いものが感じられた。基

礎的な知見も大いにありつつ、同時に臨床家として明日の臨床に使えるような知見も数多く、新たな研究への意欲や臨床への期待を高めてくれた学会であった。

残念ながら Christian-Albrechts University の Ralf Baron 先生の “Neuropathic pain : Mechanisms and new treatment options” は拝聴できなかったが、慶應義塾大学の中村雅也先生が講演された「脊髄の再生研究の現状と課題」では、損傷脊髄に対する再生へ向けた可能性に期待を持ち、産業医学講演で市原学先生が講演された「プロモプロパンによる末梢神経障害」では、アメリカで経験された患者のビデオを呈示され、非常に興味深いデータを次々に示していただいたことで、予備知識のなかった私でも、その知見の重要性にも感銘を受けることができた。その他、一般演題だけでなく、様々な教育講演やハンズオンセミナー

などもあり、非常に有意義な2日間を送ることができたと感謝している。

我々リハ科医師にとって、末梢神経障害は臨床現場で切り離せない疾患であるにもかかわらず、今回リハ科から出された演題は一握りであったのが非常にさびしく感じられた。今後、積極的に本学会へ参加し、末梢神経障害におけるリハの重要性や有用性などを提示していく必要があるのではないかと考えた。

目谷浩通

川崎医科大学

リハビリテーション医学教室



## 日本リハ医学会 夏期医学生リハセミナーに参加して

### 【亀田総合病院】

「病気が治ったら退院、その後は自分で頑張ってみてください」という話を耳にする度に、患者さんが必要としている医療とは違うのではないかと違和感を感じていました。事故や病気などで障害を持つことになってしまった方にとって、それからの人生をよりよく送ることができるようになるためにはその後のサポートが欠かせないのではないか、そんな思いから「リハビリテーション」に興味を持つようになりました。ただ、リハ医療が実際にどのようなものか詳しく知る場が身近になく、今回、亀田総合病院で医学生リハセミナーが行われるということを知り、是非にと応募させていただきました。

セミナーでは、急性期、回復期、慢性期のリハについて見学をさせていただきましたが、正直、これほど様々な角度から見学させていただけるとは思っておらず、本当に感激しております。CSS (Clinical Skills & Simulation) センターでの縫合や喉頭鏡の練習、嚥下反射や外来の見学など、リハについていろいろなことを学ばせていただき、一気に視野が広がった思いでした。病院外での患者さんとの関わりについてもとても興味が有り、訪問リハを楽しみにしていたのですが、リハに行く道すがら理学療法士 (PT) の先生が話してくださった医療のあり方は大いに参考になりました。また、見事な眺望でのおいしいお食事の席では、宮越先生、森先生、そしてPTの村永先生からたくさんの貴重なお話を伺うことができ、大変勉強になりました。

今回の研修ではリハの奥深さを覗くことができ、様々なことを考え、気づかされ、とても中身の濃い2日間を送らせていただきました。そして、亀田総合病院のリハ科の環境のすばらしさと、なんとといっても先生方のお人柄がとても魅力的でした。先生方のお話やカンファレンス見学から、リハ科には多くの知識と横断的な見方が求められており、その結果、患者さんに全人的に関わることができるということを目の当たりにして、ますますリハ医療に魅かれたとともに、これからの学生生活でしっかりと学んでいきたいと思っております。

### 【慶應義塾大学】

私は今回、夏休みの1日間、慶應大学のリハセミナーに参加させていただきました。参加のきっかけは、脳卒中のリハに以前から興味があったことと、大学の講義で学んだことが臨床の現場ではどのように行われているのか勉強したいと思ったことでした。

セミナーでは、筋電図検査や嚥下造影検査の見学をさせていただきました。先生方には、お忙しい中、様々な場面でご指導をいただき、検査についての理解がとても深まりました。嚥下造影検査では、複数の医師や看護師さんたちがモニターを確認しながら意見を出し合い、どうしたら患者さんが誤嚥を起こさず、食事を楽しむことができるか検討している姿が印象的でした。

回診前のカンファレンスには、医師だけでなくPT・差作業療法士 (OT)・言語聴覚士 (ST)・看護師の方々も参加し、情報の交換や確認を丁寧に行っていました。一人ひとりの患者さんについて、様々な方向からサポートする専門のスタッフの方々がいる、というリハにおけるチーム医療

の大切さを実感しました。また回診では、先生方が患者さんの視線に合わせて、患者さんの話をゆっくり聴こうとなさっていて、リハにおける患者さんとの信頼関係の大切さを改めて感じました。

さらに、慶應大学において現在積極的に行われている新たな治療法や試みについても教えていただきました。再生医療におけるリハの役割や、上肢機能回復のためのHANDS療法、ブレイン・マシン・インターフェースを活用したリハなど、初めて聞く内容ばかりで興味深かったです。CI療法と脳の可塑性については以前テレビで見たことがあったのですが、実際の装具をつけてみて、この訓練の大変さを実感しました。

短い時間でしたが、多くの先生方のご指導のおかげで、リハの奥の深さが少しずつ分かってきました。また機会があれば是非参加させていただきたいです。

### 【藤田保健衛生大学 (1)】

選択実習でリハ部を選択し、興味がではじめたときにセミナーのことを知り参加したいと思いました。実際にリハの道に進まれている先生が目を輝かせて話す藤田保健衛生大学のリハがどうなのか大変興味を持ちました。体験した呼吸リハや関節可動域 (ROM) 訓練 (写真)、移乗動作介助法では、方法を理解したつもりでも手が思った通りに動かなかったりしましたが、コツを教えてもらいできるようになったことは勉強になったと思います。今回体験したことは、ほとんどが初めて知ったことや、知っていても「こんなことまでリハ科でしているんだ」と改めて知ったことで、私が思っていたリハというものより10倍も奥深く、圧倒されっぱなしでした。今回のセミナーはリハを目指していく上で大事な第一歩になりました。(6年生)



### 【藤田保健衛生大学 (2)】

ポリクリで七栗サナトリウムと藤田保健衛生大学病院のリハを実習した際、とても親切にいただきました。授業とは違うリハの実際にふれることができたのですが、十分にリハのことがわかったと言えずにいました。今回、リハ医師の仕事をもっと知りたいと思い参加させていただきました。とても充実した2日間でした。ポリクリでの1週間よりも、このセミナー2日間の方がリハのことがわかった気がします。元々リハに興味があったのですが、今回のセミナーのおかげでもっと興味がわきました。(5年生)

\*\*\*\*\*

以上、スペースの関係上内容を一部割愛させていただきました。全文は学会HPに掲載いたします。

教育委員会 医学生リハセミナー担当  
芳賀信彦

REPORT

第14回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会

第14回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会が、慶應義塾大学医学部リハ医学教室の里宇明元先生を会長として、2008年9月13日～14日、千葉県幕張メッセで開催された。筆者が実際に見聞した内容を中心に報告する。

一般演題は脳卒中関連のセッションを中心に参加した。リハ科医師が参加する他の学会ではあまり聴くことのできない歯科医師や看護師・言語聴覚士等の発表が多かった。その中でもいくつかの症例報告が大変興味深く、嚥下の世界では著明な言語聴覚士の方の質

問や意見からは、教科書では分からない知識や経験を得ることができた。

シンポジウムは「嚥下機能とニューロサイエンス 評価と治療の最先端」に参加した。歯科・呼吸器科・神経内科・リハ科からそれぞれ最先端の研究内容について報告があった。特に、反復経頭蓋時期刺激や経頭蓋直流電気刺激の嚥下障害に対する治療への応用は、リハ科的な治療の可能性を感じさせるものであった。シンポジウムの最後に専門性の異なるシンポジストの先生方のお互いの議論を期待していたが、時間の関係でそのような機会はなかったのが残念であった。

どの会場も立ち見が出るほど活気にあふれていた。多職種・多分野の医療職がかかわっている嚥下障害は、リハ医療の中での重要性が今後さらに増す



ものと改めて認識した2日間であった。

高橋素彦

横浜市立脳血管医療センター  
リハビリテーション科

REPORT

第32回神経心理学会

第32回神経心理学会総会は、2008年9月18日～19日に昭和大学医学部神経内科の河村満教授を会長として、東京パシフィックホテルで開催された。

高次脳機能障害に関する学会は、今では、数多くあるが、本学会は今年で30周年を迎える歴史ある学会であり、医学、心理学、リハ、など多分野の専門家が、様々な高次脳機能障害を議論する特徴を有している。今回も、失語、

失行、認知症、など多くの症状および疾患に関する演題が出されていた。特に、社会活動を脳機能から考えようとする最近の風潮を踏まえたシンポジウム「脳の社会的コミュニケーション能力」に代表されるように、社会活動と高次脳機能との関連についての演題が注目を集めていた。意思決定や報酬予測など社会・経済活動に関連した高次脳機能の研究は、神経経済学などの新しい学問分野を生み出している。障害を持つ患者が、社会生活に復帰し、高いQOLをもって生活することを目指

しているリハ科医の立場からは、高次脳機能と社会生活とのかかわりを研究する分野の発達によりリハの新しい役割の創出も期待され、非常に興味深い研究である。より多くのリハ科医が日本神経心理学会を含む高次脳機能障害を研究する学会に参加することで、リハが取り扱う障害の幅と奥行きを広げることが期待したい。

阿部和夫

甲南女子大学  
看護リハビリテーション学部



訃報  
名誉会員 横山 巖 先生(享年  
八二歳)が、二〇〇八年六月二四  
日にご逝去されました。  
謹んでお知らせするとともに、  
ご冥福をお祈り申し上げます。

広報委員会より

本号では、巻頭特集であらたに就任なさった新理事長および新理事の先生方にご挨拶文を頂戴し、抱負などにつき述べていただきました。新理事長からは、あわせてリハ医学誌で公表された「7つのアクションプラン」のその後の動きと今後の予定について詳細な報告をいただきました。我々日本リハビリテーション医学会会員としても新理事長をはじめ新理事会の活動方針については非常に興味のあるところでしょうし、そういった意味でも本報告はタイムリーで学会新聞という媒体にはもってこいの内容ではなかったかと思えます。

本号も上記巻頭特集に加え新連載スタートがあり、また学会報告ははじめ従来から継続の多彩な記事・連絡事項を含め多くのコンテンツを掲載することができました。新連載『リハ医への期待』については、我々リハ医に対して外部患者・当事者団体が望むことを伝える場として企画させていただきました。臨床医として常に患者の声に耳を傾ける姿勢は非常に重要であり有意義な企画であると考えています。

今後とも会員の皆様の情報源としてより上質でタイムリーな情報の提供ができるよう、内容・紙面ともにさらなる改良・充実に努めて参ります。引き続き広報委員会活動にご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。(平岡 崇)

**お知らせ - 1**

詳細は <http://www.soc.nii.ac.jp/jarm/>  
(開催日、会場、主催責任者、連絡先)

【実習研修会】(20 単位)

◎第3回福祉・地域リハビリテーション  
実習研修会：2009年2月13日(金)～  
15日(日)、横浜市総合リハビリテーショ  
ンセンター、受講料：25,000円(当日  
配布資料含)、定員：20名、申込締切：

10月31日(定員になり次第締切)、横  
浜市立大学附属病院リハビリテーショ  
ン科(加藤弓子)、Fax 045-783-5333

◎第2回「動作解析と運動学実習」実習  
研修会：2009年3月26日(木)～28日  
(土)、藤田保健衛生大学、受講料30,000  
円、定員：先着順25名、申込締切2008  
年12月26日(金)、藤田保健衛生大学  
医学部リハビリテーション医学講座、Tel  
0562-93-2167

○・◎認定臨床医受験資格要件：認定臨床医  
認定基準第2条2項2号(認定臨床医受験  
資格要件)に定める指定の教育研修会、◎：  
必須(1つ以上受講のこと)

\*

平成20年度リハ科専門医・認定臨床医  
試験申請検討中の先生方へ：本年度のリ  
ハ科専門医・認定臨床医試験各申請書類  
受付期間：10月1日～11月17日(必着)

**ここがポイント！整形外科疾患の  
理学療法 改訂第2版**

監修 富士 武史 (大阪厚生年金病院整形外科部長)

共著 河村 廣幸 (大阪府立急性期・総合医療センター)

小柳 磨毅 (大阪電気通信大学教授)

淵岡 聡 (大阪府立大学助教授)

コルセットの装着方法、人工股関節全置換術  
後の寝返りの仕方や風呂の入り方、立ち上がり  
の際の介助法など、看護師やヘルパーなどの他  
職種の方々にも役立つ情報を追加した改訂版。



●ISBN 978-4-307-25133-4

●B5判 324頁 1035図 ●定価6,825円(本体6,500円+税5%)

**運動療法学**

編集 柳澤 健

首都大学東京健康福祉学部理学療法学科教授

「理学療法評価学」の姉妹本。最新の「運動  
療法学」の理論と技法が網羅されているので、  
学生だけでなく、理学療法士や関連医療従事  
者にも最適な成書。



●ISBN 978-4-307-25135-8

●B5判 416頁 392図 ●定価6,510円(本体6,200円+税5%)

**医療マッサージの  
基礎と応用**

監修 松澤 正 群馬パース大学教授

筑波技術短期大学名誉教授

編著 藤原 實 元宮城県立盲学校理療科教諭

元国立仙台病院付属

リハビリテーション学院講師



日常的に利用されることの多い手技について、  
必要な基礎知識・実技の具体的な練習方法・局所的な応用などに  
重点を置いた。理学療法の治療の効果を上げるのにも役立つ。

●ISBN 978-4-307-75021-9

●B5判 140頁 159図 ●定価3,150円(本体3,000円+税5%)

**物理療法学**

監修 松澤 正 群馬パース大学教授

理論と治療の実際をまとめた本書は、国家試  
験ガイドラインや理学療法教育コアカリキュラム  
案の物理療法関連項目に準拠、内容も、図表を  
多く取り入れ、理解しやすく、実践的なものとした。



●ISBN 978-4-307-75020-2

●B5判 320頁 231図 ●定価5,040円(本体4,800円+税5%)

**金原出版**

〒113-8687 東京都文京区湯島2-31-14 電話03-3811-7184(営業部直通) FAX 03-3813-0288  
振替00120-4-151494 ホームページ <http://www.kanehara-shuppan.co.jp/>



A subsidiary of Merck & Co., Inc.,  
Whitehouse Station, N.J., U.S.A.

持続性ARB/利尿薬合剤

薬価基準収載



**プレミネント錠**

〈ロサルタンカリウム/ヒドロクロロチアジド錠〉

指定医薬品・処方せん医薬品：注意一医師等の処方せんにより使用すること

「効能・効果」「用法・用量」「禁忌を含む使用上の注意」等、詳細については製品添付文書をご参照下さい。

Registered trademark of Merck & Co., Inc., Whitehouse Station, N.J., U.S.A.

製造販売元(資料請求先)

**万有製薬株式会社**

〒102-8667 東京都千代田区九段北1-13-12 北の丸スクエア  
ホームページ <http://www.banyu.co.jp/>

2008年6月作成 | 06-13CZR-08-J-A184-J

経腸栄養剤(経管・経口両用)

# ラコール®

RACOL®

薬価基準収載



200mL アルミパウチ  
(ミルクフレーバー、コーヒーフレーバー、バナナフレーバー)  
400mL バッグ

◇効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等は、製品添付文書をご参照ください。

販売提携  
Otsuka 大塚製薬株式会社  
東京都千代田区神田町2-9

販売提携  
株式会社大塚製薬工場  
徳島県鳴門市撫養町立岩子芥原115

製造販売元  
イーエヌ大塚製薬株式会社  
岩手県花巻市二枚橋第4地割3-5

資料請求先  
株式会社大塚製薬工場 学術部  
〒101-0048 東京都千代田区神田町2-9

(07.12作成)



骨粗鬆症治療剤・骨ページェット病治療剤

## ベネット錠® 17.5mg

リゼロン酸ナトリウム水和物錠

薬価基準・収載

劇薬・指定医薬品・処方せん医薬品(注意—医師等の処方せんにより使用すること)

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。



製造販売元 [資料請求先]  
▲武田薬品工業株式会社  
〒540-8645 大阪市中央区道修町四丁目1番1号  
<http://www.takeda.co.jp/>

Wyeth

提携  
ワイズ株式会社  
〒141-0032 東京都品川区大崎一丁目2番2号  
<http://www.wyeth.jp/>

(0807)

**お知らせ - 2**

詳細は <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jarm/>  
(開催日、会場、主催責任者、連絡先)

**第46回学術集会**：2009年6月4日(木)～6日(土)、静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ、テーマ：リハビリテーション医学—夢と希望への挑戦—、会長：木村彰男(慶應義塾大学月が瀬リハビリテーションセンター)、運営幹事：長谷公隆(慶應義塾大学リハビリテーション医学教室)、Tel 03-5363-3833、Fax 03-3225-6014、E-mail : jarm2009@ktrc.med.keio.ac.jp、<http://www.congre.co.jp/jarm2009/>

**【専門医会】**

○**第3回リハビリテーション科専門医会学術集会**(40単位)：12月6日(土)～7日(日)、都久志会館ホール、佐伯 覚(産業医科大学リハビリテーション医学講座)、池田 聡(鹿児島大学病院リハビリテーション科)

**【地方会】**

○**第22回中国・四国地方会等**(30単位)：12月14日(日)、岡山大学医学部臨床講義棟、尾崎敏文(岡山大学大学院生体機能再生・再建学講座整形外科学)、Tel 086-235-7270

○**第26回近畿地方会等**(30単位)：2009年2月28日(土)、奈良県立医科大学 厳樞会館、森本 茂(友誼会西大和リハビリテーション病院)、(有)セクレ

タリアット、Tel 075-315-8472

**【専門医・認定臨床医生涯教育研修会】**

○**近畿地方会**(20単位)：11月8日(土)、兵庫県民会館(9階ホール)、(有)社セクレタリアット、Tel 075-315-8472

○**近畿地方会**(20単位)：11月16日(日)、京都府立医科大学付属図書館ホール、(有)セクレタリアット、Tel 075-315-8472

○**中国・四国地方会**(30単位)：11月22日(土)、高新文化ホール7階、石田健司(高知大学リハビリテーション部)、Tel 088-880-2491

**【研修会】**(20単位)

○**第3回一般医家に役立つ運動器のリハビリテーション研修会**：12月13日(土)～14日(日)、対象：一般医家、全社協・灘尾ホール、定員：200名、受講料：25,000円(当日昼食代含む)、(株)サンプルネットメディカルコンベンション事業本部：北尾 華、Fax 03-3942-6396、学会HPより申込

○**第3回一般医家に役立つ呼吸器のリハビリテーション研修会**：2009年2月21～22日予定

○**平成20年度義肢装具等適合判定医師研修会(第64回・第65回)**：第64回12月8日(月)～12日(金)、第65回2009年3月9日(月)～13日(金)、国立障害者リハビリテーションセンター学院、定員：各100名、申込締切(郵送必着)：第64回10月17日(金)、第

65回2009年1月8日(木)、国立障害者リハビリテーションセンター学院、Tel 04-2995-3100、Fax 04-2996-0966

**【関連学会】**

**第43回日本脊髄障害医学会**(10単位)：11月6日(木)～7日(金)、かでの2・7(北海道道立道民活動センター)、岩崎喜信(北海道大学医学部神経外科)、Tel 011-706-5987

**第32回日本高次脳機能障害学会(旧日本失語症学会)**(10単位)：11月19日(水)～20日(木)、愛媛県民文化会館、日本高次脳機能障害学会事務局、Tel 03-3673-1557

**第24回日本義肢装具学会**(30単位)：11月29日(土)～30日(日)、日本工学院専門学校蒲田キャンパス、アサツーディ・ケイメディカル事業室、Tel 03-3547-2533、Fax 03-3547-2590

○・◎認定臨床医受験資格要件：認定臨床医認定基準第2条2項2号(認定臨床医受験資格要件)に定める指定の教育研修会、◎：必須(1つ以上受講のこと)

広報委員会：田島文博(担当理事)、山田深(委員長)、阿部和夫、大高洋平、志波直人、野々垣学、平岡 崇  
問合せ・「会員の声」投稿先：「リハニュース」編集部 〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16 (財)学会誌刊行センター  
Tel 03-3817-5821 Fax 03-3817-5830  
E-mail : r-news@capj.or.jp  
製作：(財)学会誌刊行センター  
印刷：三美印刷(株)

エーザイは、『運動器の10年』活動のパートナーとして運動を推進してまいります。



運動器の10年 | 世界運動

**エーザイ販売の主な**

**運動器疾患における治療薬・診断薬**

薬価基準収載

検体検査実施料収載



劇薬・指定医薬品  
処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること  
**骨粗鬆症治療剤**

**アクトネル<sup>®</sup>錠2.5mg**

骨粗鬆症治療剤/骨ページェット病治療剤

**アクトネル<sup>®</sup>錠17.5mg**

〈リセドロン酸ナトリウム水和物錠〉

骨粗鬆症治療用ビタミンK<sub>2</sub>剤

**グラケー<sup>®</sup>カプセル15mg**

〈メナテレノン製剤〉

指定医薬品  
処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること  
**筋緊張改善剤**

**ミオナール<sup>®</sup>錠50mg 顆粒10%**

〈エベリゾン塩酸塩製剤〉

末梢性神経障害治療剤  
**メチコバル<sup>®</sup>錠250μg 錠500μg 細粒0.1%**

処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること

**メチコバル<sup>®</sup>注射液500μg**

〈メコパラミン製剤〉

劇薬・指定医薬品  
処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること  
**組織活性型鎮痛・抗炎症剤**

**インフリー<sup>®</sup>カプセル100mg**

**インフリー<sup>®</sup>Sカプセル200mg**

〈インドメタシン ファルネシル製剤〉

指定医薬品

経皮吸収型鎮痛消炎剤

**フェルビナク<sup>®</sup>テープ70mg「EMEC」<sup>\*</sup>**

〈フェルビナク貼付剤〉

劇薬・指定医薬品

鎮痛・抗炎症・解熱剤

**ロキソプロフェン<sup>®</sup>錠60mg「EMEC」<sup>\*</sup>**

〈ロキソプロフェンナトリウム水和物錠〉

低カルポキシル化オステオカルシンキット  
血清中低カルポキシル化オステオカルシン(ucOC)測定用医薬品

**ピコル<sup>®</sup>ucOC<sup>\*</sup>**

〈電気化学発光免疫測定法〉

<sup>\*</sup>販売提携品

●効能・効果、用法・用量及び禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

**Eisai** エーザイ株式会社  
〒112-8088 東京都文京区小石川4-6-10  
<http://www.eisai.co.jp>

商品情報お問い合わせ先：エーザイ株式会社 お客様ホットライン室  
☎ 0120-419-497 9～18時(土、日、祝日 9～17時)

SE0807-3 2008年7月作成